



災害対策委員ブロックML活用企画！ 災害支援コラム

VOL.
04

24 July, 2025

column

～ 期間限定配信「平時の備えコラム」VOL.4

“風水害の季節を迎えて” ～

今月のコラムを担当させていただきます静岡県支部の石田です。

4年前の7月3日、熱海市伊豆山土石流災害が発生しました。私にとっては、自分の身に迫る初めての災害でした。発災時、職場でTVの報道を観ながら、利用者、職員ともに、これが本当に伊豆山なのかと信じがたい思いでした。28人の方が亡くなられ、98棟の住宅被害となりました。132世帯227人の被災者のうち、今年7月の時点で26世帯54人が帰還、85世帯130人が他の場所で生活再建をしており、21世帯43人が伊豆山への帰還を希望し公営住宅等での避難生活をされているとのことです。



当時の静岡県協会（一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会）の動きとしては、災害対策本部の設置、県からの要請を受け8月に公認心理師協会とともに被災者への訪問支援、相談会の設置や支援者支援活動を行っています。また、熱海市社会福祉協議会兼熱海市災害ボランティアセンターからの依頼を受け、被災者がホテル避難所から仮設住宅等へ移行するにあたり実施する、生活再建ヒヤリング調査に参加協力しました。その際の活動を通し、県協会としても、自治体との連携の重要性や、今後の災害福祉広域支援ネットワークとの連携の必要性を考えていくこととなりました。それから、災害対策計画に則り動く中で、具体性が不十分であることも実感。災害対策本部の役割や情報収集などについて明記したり、自治体との協定の検討について触れたり、実用性のあるものへと改訂しています。実際の場面で生かせるものを想定しながらつくることの難しさと同時に、実践例や経験則の重要性や価値も強く感じます。

今年の梅雨は、鹿児島県で線状降水帯が発生、避難指示も出されました。しとしとと長雨を見て季節を感じるのが梅雨であったはず、いつから災害級の大雨になったのかと驚きます。“記録的短時間大雨情報”という発表もまだ耳慣れません。数年に1度しか発生しない大雨が観測されたときにいっそうの警戒を呼びかけるもの、だそうです。これからは台風の多く発生する時期となり、この7月にも台風5号や熱帯低気圧による大雨被害が各地域でありました。

こちらは、気象庁の“大雨や台風に備えて”のパンフレットページです。

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/ooametyphoon/index.html>)

みなさまの備えの一助になれば幸いです。

Editor's note

災害支援体制整備・復興支援委員会
委員 石田 由貴（静岡県支部）

地域活動支援センターの運営と相談支援事業を行う事業所で、主に相談支援専門員として毎日過ごしています。2022年度より県協会東部ブロックの災害対策委員、2024年度より本協会委員会の委員としても活動させていただいています。災害支援活動は、ほぼ未経験。委員会の活動を通し、たくさんの刺激と笑いと学びをいただきながら、日々前進中（希望）です。



日本精神保健福祉士協会 災害支援体制整備・復興支援委員会